

月刊

地域保健



●特集

女性の健康づくり支援



梶田悦子さん

名古屋大学医学部保健学科教授

●FACE2009



名古屋大学医学部保健学科教授

梶田悦子 さん

公衆衛生看護の理念を伝えたい

地域に出たうフェイス・トゥー・フェイスの関係を大切に

保健師の活動を表す言葉に「公衆衛生看護」があります。最近では「地域看護」が前面に出で、目にする機会が少なくなってきたようですが、この呼称にこだわり続けているのが名古屋大学医学部保健学科の梶田悦子教授。「公衆衛生看護」に込める思いと保健師教育、ライフワークにされている骨粗しそう症の予防指導の研究についてお聞きしました。

地域看護は 公衆衛生看護の一分野

—長年、骨粗しそう症の予防指導の研究を続けられていますが、きっかけはどのようなことですか？

梶田 これはまったくの偶然で、1984年に福井県立短期大学に赴任したとき、「婦人の健康づくり」の取り組みが始まつたのがきっかけです。骨折は寝つきりの原因の上位を占めるので、予防が必要ではないかと翌年から勤務先の先生と一緒に始めました。ライフ

スタイルと骨密度との関係をみていくことを中心にして、それをいかに保健指導に還元するかを研究しています。

2005年には近畿大学医学部の伊木雅之先生をプロジェクトリーダーに『地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン』を作りました。学位をとったのも骨粗しそう症予防指導に関する研究ですし、今ではすっかりライフワークになっています。

骨粗しそう症は若年期・中高年期・老年期と各年代での指導法があり、予防はできるだけ早い時期から始める必要があります。研究では、単にカルシ

ウム摂取や軽い運動の大切さをどう伝えるかではなく、具体的にカルシウムはどれくらい摂取したらいいのか、運動はどれくらいの強度のものをどれくらいすればいいのかなど、科学的根拠に基づいた効果的な保健指導の展開の方法について整理しているところです。

—先生は授業や実習の名称に「公衆衛生看護」という言葉を使っておられるようですが、その言葉にこだわるのはなぜですか？

梶田 ご存じのように、憲法第25条の第1項で「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、第2項で「国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあります。保健師助産師看護師法の第1条では「この法律は、保健師、助産師及び看護師の資質を向

女性の健康づくり支援



性差医療が注目され、女性専門外来も花盛りである。しかし一方で子宮頸がん検診率が諸外国と比べかなり低いなど、まだ啓蒙が十分とはいがたいのが現状である。厚生労働省は3月1~8日を「女性の健康週間」とし、「女性の健康づくり推進懇談会」「生涯を通じた女性の健康づくりについてのワーキンググループ」を立ち上げるなど、女性の健康づくり対策を積極的に推進している。

特集では、乳がんを体験した保健師のインタビューを通じて、この問題への保健師の視点を整理した。さらに厚生労働省の取り組み、各種疾患の最新知見、性差医療の解説等、保健師活動に参考となる情報を網羅した。

p8 インタビュー 青木美保さん（保健師 We Can Fight主宰）
取材・文 編集部

p18 女性の健康づくり支援について 浜松市保健所 坂本友紀

p22 性差医療から見た内臓脂肪・生活習慣病危険因子の問題
財団法人 野中東皓会 静風荘病院 天野恵子

p26 各疾患の最新知見

p26 子宮内膜症 東京大学医学部附属病院 百枝幹雄

p30 摂食障害 烏丸御池中井クリニック 中井義勝

p34 骨粗しょう症 国立長寿医療センター 細井孝之

p38 更年期障害 東京女子医科大学 太田博明

p43 乳がん 聖路加国際病院 竹井淳子、中村清吾

p48 子宮がん 癌研有明病院 瀧澤 憲

p54 女性と歯の健康 新潟大学医歯学総合病院 伊藤加代子

p58 若者の性感染症の現状 赤枝六本木診療所 赤枝恒雄

田中綾さん
たなかあや

福岡県宗像市役所健康福祉部健康づくり課
●文・写真 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

ちょっとおっちょこちよい、 熱意に溢れた「ひよこ」一年生

周囲に愛され成長中！



電話も窓口も率先して受ける積極性が先輩たちから評価されている

ひよこ保健師はこちらから取材をお願いすることもあるれば、何らかの推薦をしていただくこともある。今回は福岡県宗像市から

「とても明るくてのどかな雰囲気。会つた人たちはみんなホッとするのではなでしようか？ おっちょこちよいところもかわいくて、笑顔もすてき。真面目で一生懸命だし……」
との推薦メールをいただき、なんとかとても会つてみたくなり福岡に飛んだ。

宗像市は福岡市と北九州市のほぼ中間にあり、人口は10万人弱。市の公式ホームページによると某経済誌の住みよさランキング・快適度で全国28位の、学術文化都市として紹介されたことがあるようだ。ユニークなのはかつて遣唐使も立ち寄った海の正倉院、沖ノ島があることだろう。実はこの島、女人禁制とのこと。歴史的にも興味深いところである。

福岡空港から車で1時間弱。宗像市役所に着き、ひよこさんの所属する健康福祉部健康づくり課に行く。受付で最初に声を掛けたところ若い女性が駆け寄ってきた。実はこの人が今回のひよこ保健師、田中綾さん（25歳）であった。

とても緊張している様子だったので、話しやすいであろう出身地のことを聞いてみると、「出身地ですか？ えーっと、あの…、どうお答えしていいものやら……」予想に反して困った顔をしているのでこちらも困った。あれ、そんなに難しいこと聞いていないはずだけど、どうしてそんなに戸惑うの？

数秒後、田中さんの話し始めた内容を聞いてなるほどと思った。

「えーっと、オギャーと生まれたとき



筑前大島や沖ノ島への海域ではアジやイカ漁が盛ん

に居たのは両親の故郷である、ここ宗像なんですが、これは里帰り出産でして、当時住んでいたのは仙台です。その後川崎、名古屋、仙台、川崎、熊本と来て、今は宗像市に住んでいます」

お父さんの転勤が多かったとのこと。なるほど、これだと出身地の答えにもしある。